

数学

<全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	5題
------	------	-------	----

解答形式

全問記述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

各問題で、ていねいに分題され、それに従えば必然的に最後まで解ける形式が増えた。

難題と言える問題がなくなり、いずれの問題も解きやすく、計算量はやや減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

毎年よく練られた問題がバランス良く出題されているのは同じだが、分題によって非常にていねいに誘導されている問題が増えた。

その他トピックス

2022年度は確率と複素数平面が出題されなかったが、今年は両分野とも復活した。

【Ⅱ】（1）は2022年度大学受験科完成シリーズテキスト『数学③T』演習7・4がズバリ的中。

【V】（4）は2022年度大学受験科完成シリーズテキスト『理系数学演習』演習12・3Bがズバリ的中。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
【Ⅰ】	数列 整数	数学B 数学A	n 次式を2次式で割った余りの、 x の係数と定数項が互いに素であることを示す。漸化式の利用。	標準
【Ⅱ】	確率	数学A	取った色と同じ色の玉をひとつずつ加えていく設定（「ポリアの壺」として知られる設定）の問題。	標準
【Ⅲ】	微分・積分	数学Ⅲ	指数関数のグラフとその逆関数（対数関数）のグラフとで囲まれる部分の面積。	やや易
【Ⅳ】	複素数平面	数学Ⅲ	$w = 3/z$ で線分が移る円弧（の一部）を決定する。答はほぼ分題中に与えられている。	標準
【Ⅴ】	空間ベクトル 積分	数学B 数学Ⅲ	三角形を回転してできる回転体の体積。これも分題でていねいに手順が示されている。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年、主要分野からよく練られた問題が出題される。比較的易しい問題から、難しい問題まで出題されるので、標準的な問題集で幅広く力をつけておきたい。

適切なヒントや誘導が分題として出されている問題が多いので、分題をどのように使えば良いのか、常に考えるようにしよう。

証明問題も必ず出題されるので、要領よく記述する力も養っておきたい。

確実な計算力を必要とする問題も出題されるので、普段から自分の手で最後まで根気よく計算する練習を積んでおこう。